

こうりん



霊峰 立 山

内 容

- ・ 十夜法要のご案内
- ・ 院号授与式
- ・ 絵図に描かれた地獄
- ・ 子は親の鏡
- ・ 七五三
- ・ つくってみよう精進料理
- ・ お知らせ

縁なき衆生は度しがたし

これはお釈迦様がおっしゃったことばですが、佛道修行にかぎったことではないでしょう。

私たちは自分のことが一番わからない。自分以外のことに目をうばわれてあれを思い、これを愚痴つて日暮らしをしている。人のことはよく見えるものです。

しかし、自分の目を見ることができますか？自分の背中を自分の目で見ることができますか？

「このことに気づかない人は『度しがたし』なのです

檀信徒各位

平成 17 年 11 月上浣
無量寺住職 堤 俊翁

十夜法要の御案内

聖名、時下晩秋の候、専心聞法の好季節と相成りました。
貴家御一統様益々御清祥の趣、お慶び申し上げます。
さて、早くも今年最後の法要「お十夜」を迎える事になりました。
就きましては、左記の通り相つとめます。御多忙の事とは存じますが、何卒万障お繰り合わせ御参詣の程、御案内申しあげます。
至心合掌

記

日時 平成 17 年 11 月 23 日（勤労感謝の日）

午後 1 時より御 回 向（普通回向）

午後 2 時よりふじゅもんえこう諷誦文回向（特別回向）法 話

布教師 三田川町光明寺住職 早田 空善 上人

御回向料 普通回向 1 霊に付金 1,000 円以上ご志納下さい。

特別回向 1 霊に付金 5,000 円以上ご志納下さい。

特別回向 初めてお十夜を迎える霊位、又は 特別に志される霊位、布教師様による諷誦文回向です。
お申し込みの方は事前に御連絡をお願いいたします。
お申し込みは FAX にても結構です。

普通回向 位牌型に回向される方の戒名と施主名を記入して下さい。（複数記入されても結構です。）

お願い

墓地へご参詣のみなさまへ 枯れたお花などは墓地奥の焼却炉へ
塵かごがあります。

納骨堂へご参詣の皆様へ お供えはお持ち帰り下さい。

院号授与式

3 年前の秋彼岸法要から「だるまさん」を始めておりました。「一人でも多く念佛を称える方を増やしたい、佛教の教えに触れる時間を少しでももっていただこう」との願いをもって続けてまいりました。この度 4 人の方が 100 だるまを達成されましたので、彼岸法要の堰で授与式を行いました

観智院 秋山 圭司さん



専修院 山下 堅一さん



浄雲院 山下 慶子さん



常称院 上野 泰彦さん



100 だるまを集められた方はお申し出下さい。お札を添えて自己申告でお知らせ下さい。

お寺では控えがありません。ご夫婦やご家族の合計ではなくお一人ずつ集めてください。

お札を渡した日付を確認してお名前を記入しておいて下さい。お一人でも多く受けられることを念願しております。

だるまさん

年間 5 回の法要（御忌、彼岸、施餓鬼、十夜）の法話、念佛講、14 日会等に参加された方に渡しています。

100 だるま以上集められた方には無条件で、お戒名に院号をお贈りします。お札に名前を書いて保管しておいて下さい。

御忌法要
2004年1月25日

香林山
無量寺



3

<http://muryoji.net>

念佛講
2003年7月25日

香林山
無量寺



2

<http://muryoji.net>

14 日会
2003年11月14日

香林山
無量寺



2

<http://muryoji.net>

絵図に描かれた地獄の世界

現世から冥府の王庁へ



Scene 1

現世から死後の世界へ

横たわる女性から魂がぬけだし、死出の旅路へ。振りかえる死霊は、この世に何を思うのだろうか。右の琴をひく女性は、生前のあでやかな姿だ。命ははかなく消えて、左の野辺に捨てられた遺体は鳥や獣に食い荒らされ、骨をさらしている。



Scene 2

三途の川と奪衣婆(だつえば)

あの世とこの世の境目にあるのが三途の川。ここを渡った亡者が出会うのが、左に大きく描かれている奪衣婆だ。奪衣婆は、亡者の装束を剥ぎとり、かたわらにある衣領樹という木の枝にそれを掛ける。枝のしなり具合で亡者の生前の罪を計るので、ごまかしなどきかない。



Scene 3

三途の川と
地藏菩薩の救済

幼くして死をむかえた子どもたちが、養の河原で石積みをしているところへ、鬼が出てきて崩そうとしている。そこへ左に描かれている地藏菩薩があらわれ、子どもたちを衣のかげにかくまって、守ってくれている姿が描かれている。

Scene 4

冥府の王庁で
閻魔王の裁き

閻魔王を中心に、生前の罪業により亡者を裁く閻魔王庁の様子が描かれている。
鬼に髪の毛をつかまれて、心の中の何もかもを映し出してしまう鏡(浄瑠璃鏡)の前に差し出される亡者。その後ろには首枷をされた亡者たちが、裁きの順番を待っている。
計りの先に女と男の首を戴く人頭幢は、亡者の生前の罪を判断する道具だ。



「子は親の鏡」 ドロシー・ロー・ノルト『子どもが育つ魔法の言葉』PHP 研究所より

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、
子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、
子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを学ぶ
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりを持って育てれば、
子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

佛事のまめ知識

【七五三(しちごさん)】

幼児の成長期における重要な儀礼の一つ、かつて幼児の死亡率が高かった江戸時代に、成長の節目毎におこなわれはじめ、

男女児とも三歳を髪置(かみおき)⁰¹、

男児五歳を袴着(はかまぎ)⁰²、

女児七歳を帯解(おびどき)⁰³、帯結(おびむすび)または紐落(ひもおとし)⁰³の祝いと称して、それまでの一つ身の着物から三つ身、四つ身などに着替えたり、新しい帯をしめて氏神などに参拝をする。

「七つの前は神の子」ということわざにみられるように、七歳までは神々に属する存在として、その間のおこないはとがめられないとされていた幼児が、この時期に社会の成員として承認される祝いである。

また、親が家事を教えはじめるのもだいたいこの時期からであり、明治以来の義務教育が七歳(満ならば六歳)からはじめられているということはまことに意義深い。

七五三が三歳、五歳、七歳という年齢に固定されたのは、奇数を陽とする中国の影響ともいわれている。

1 髪置(かみおき)

幼児が頭髪を始めてのばす儀式。
本来、すが糸で作った白髪をかぶせ、頂におしろいをつけて祝うものだが、その祝い方については地方によりさまざまである。

2 袴着(はかまぎ)

幼児にはじめて袴を着せる儀式。
古くは三歳の時に多くおこなわれたが、最近では五歳または七歳の時におこなわれている。

3 帯解(おびどき)・帯結(おびむすび)・紐落(ひもおとし)

幼児がそれまでの付帯をやめ、はじめて帯を用いる祝の儀式。
ふつう男児は五歳から九歳、女児は七歳の時におこなわれる。

作ってみよう 精進料理

【いとこ汁】

(浄土宗かるな) より

材 料

豆腐 3分の2
小豆 半カップ
里芋 中3個
昆布の出し汁 適量
八丁味噌 少々

作り方

- 1 豆腐はさいの目に切っておく。
- 2 小豆は前日に水に浸し置き、柔らかく煮しておく。
- 3 里芋を適当な大きさに輪切りにし、ヌメリを取るために軽く湯がく。
- 4 昆布で出し汁をとった味噌汁に(3)(2)(1)の順に入れ少々煮込む。



第 32 回佛教文化講演会

「こころ豊かに生きる」 感動と安らぎを求めて



さる 10 月 29 日 (土) の午後に

石橋文化センター共同ホールで久留米市佛教会主催の佛教文化講演会が開かれました。

講師は 無量寺にも毎年布教に来られている、山上光俊上人でした。

内容は 違って一つになる生き方

宇宙の中の私—私の中の宇宙—そして心の宇宙 でした。

お上人のやさしい語り口に会場はなごやかな雰囲気にも包まれて、(唯識) 深層心理の話なども伺いました。

また、時折、全員で歌を歌ったりしながら、一体感を味わいました。

「一人でも多くの方が真実の自己に気づいて頂けるように」というお上人の願いが感じられる講演会でした。



使用済みのカードはありませんか？

使用済みのプリペイドカード (テレフォンカード、ハイウェイカードなど) がありましたら、お寺へ御持参下さい。国際協力事業団 (JICA) を通じて、世界中の子供達の医薬品や医療器具などを購入するための資金を得る活動に役立てていただきます。

世界中のカード収集家に販売してその収益が当てられます。

写真や絵など図柄が美しいものが、喜ばれます。

10 月末で 360 枚お寄せ頂きました。ありがとうございます。

香林山 冷智院 無量寺

機関誌 こうりん

第 40 号 平成 17 年 11 月 1 日発行

〒 830-0044 福岡県久留米市本町 8-4

TEL 0942-32-3010 FAX0942-32-2701

郵便振替口座 01750-7-16114

URL <http://www.muryoji.net>

E-mail info@muryoji.net